

# 知っていますか？ 使用済み核燃料の危険

## 【目次】

はじめに	1 P
1. 使用済み核燃料とは？	2 P
2. こんなに溜め込んでいる日本の原発	3 P
3. どう処理しようとしている？	4 P
4. 危険極まりない再処理計画	5 P
5. プルサーマルで増す危険	5 P
6. 何より危険な「出来たて使用済み核燃料」	6 P
7. 福島原発事故で何が起きていた？	7 P
8. その場しのぎの「中間貯蔵」	8 P
9. 乾式貯蔵にすれば安全？	9 P
10. 行き場のない核のゴミ	10 P
11. 原発を止め、安心して暮らし続けられる社会へ	11 P
あとがき	12 P

## はじめに

最近、原子力発電所を動かすことで出る「ゴミ」の話題が頻繁にニュースになっています。「中間貯蔵施設」や「乾式貯蔵」、「最終処分場」といった言葉がよく新聞に出て来ます。

2023年8月2日、中国電力は山口県上関町に使用済み核燃料を保管する中間貯蔵施設を造りたいと発表しました。しかしその計画受け入れを表明した町長に、反対する住民が詰め寄り、警察官に保護されながら町役場に入るような事態が起きました。

9月12日には長崎県対馬市の市議会が原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場の候補地を選ぶ調査を受け入れることを市長に求めましたが、市長は拒否しました。

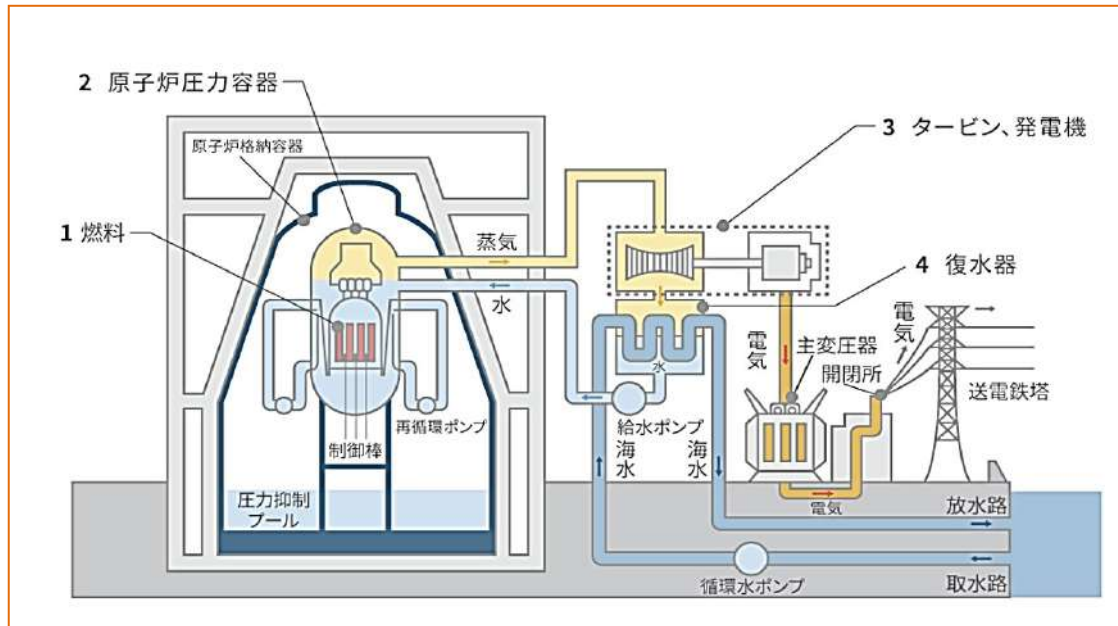
2024年3月27日には、青森県むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設を運営するリサイクル燃料貯蔵（RFS）が、7～9月に事業を開始する計画を青森県知事に出し、東京電力柏崎刈羽原発の使用済み核燃料を初めて搬入する予定であると発表しました。

一方、経済産業省は5月1日、佐賀県玄海町に対し高レベル放射性廃棄物の処分地選定のための「文献調査」の実施を申し入れ、町長は5月10日に受け入れを表明しました。

こうした動きが起きている背景には何があるのでしょうか？このパンフレットでは、原発を動かすと出る使用済み核燃料とは何なのか、それにはどのような問題があるのかについて、わかりやすく解説していきたいと思います。

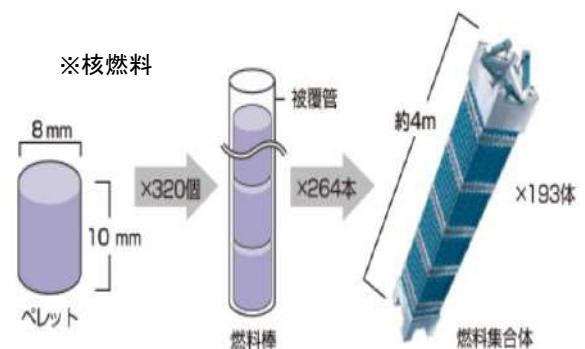
## 1. 使用済み核燃料とは？

原子力発電所（原発）はウラン燃料が核分裂を起こして出す熱を使い発電する施設です。



※沸騰水型原子炉の構造図（東電 HP より）

原発の燃料はウランですが、このうち核分裂をするのはウラン 235 です。ウラン 235 は天然ウランの中に 0.7%程度しか含まれていないため、ウラン 235 の割合を 2～4%程度まで濃縮し、直径約 1cm、高さ約 1cm の円柱状（ペレット）に焼き固め、これを合金製の長い管（鞘）の中に収めた燃料棒というものをいくつも束ねて燃料集合体として使っています。



（関電 HP より）

ウラン 235 の原子核に中性子があたると、陽子と中性子を結びつける力が不安定になり核分裂が起きます。この時、膨大な熱エネルギーが発生し、同時に 2～3 個の中性子が放出され、この中性子がまた他のウラン 235 を核分裂させます。次々とくり返されるこの反応を核分裂の連鎖反応といいます。原発はこの連鎖反応により発生する熱により水を水蒸気に変え、タービンを回し電気を起こしています。原発を運転すると、核燃料中で核分裂するウランの減少によって中性子発生数と発熱量が減少し、また、運転に不都合な各種の放射性元素が生成する一方、燃料被覆管に腐食や変形が生じます。そのため、**核燃料は一定期間（4～5年）燃焼させると新燃料と交換せざるを得なくなり、使用済み核燃料が発生します。**

原発を 1 年動かすと、ウラン燃料 1 トンにつき、8 京 9 千兆ベクレル（主な放射性物質の放射能合計）以上の放射能を持つ使用済み核燃料が出ます。その内セシウム 137 は 3,700 兆ベクレルで、広島原爆が放出したセシウム 137（89 兆ベクレル）の約 42 発分です。100 万 kW の原発 1 基が 1 年間に使用するウラン燃料は 21 トンですから、広島原爆 882 発分のセシウム 137 を生み出していることになります。

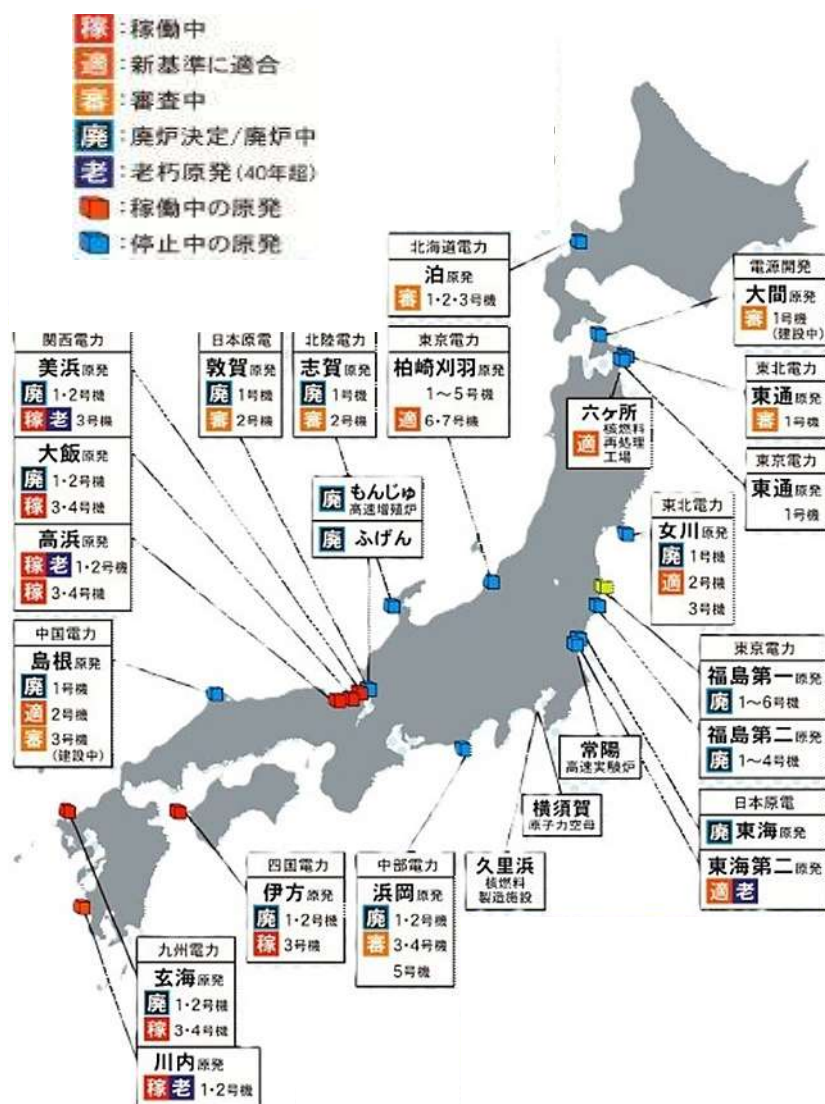
使用済み核燃料は発生直後には膨大な放射線と熱を出しますので、まずは燃料プールに

水冷保管して放射線と発熱の減少を待たなければなりません。使用済み核燃料の放射線量が元のウラン鉱石と同じ程度になるまでには10万年以上の時間がかかります。

## 2. こんなに溜め込んでいる日本の原発

使用済み核燃料を溜めておくためのプールが、今、満杯になろうとしています。日本には、現在（2024年3月末）、使用済み核燃料が19,688トンたまっています。各原発の使用済み核燃料の貯蔵率は右下の表の通りです。最も稼働している原発の多い関西電力の原発プールでの使用済み核燃料の貯蔵量は現在3,810トンで管理容量に占める貯蔵率は8割を超えており、4～7年後（2027～2030年）には使用済み核燃料プールは満杯になります。そのため、全国の電力会社は、プールの**リラッキング**（燃料を並べる仕切り（ラック）の間隔を縮小すること）などにより、プールに空きを作ろうとしています。プールが満杯になれば、**原発を運転できなくなる**からです。

【日本全国の原発】



【各原発の使用済み核燃料の貯蔵率】

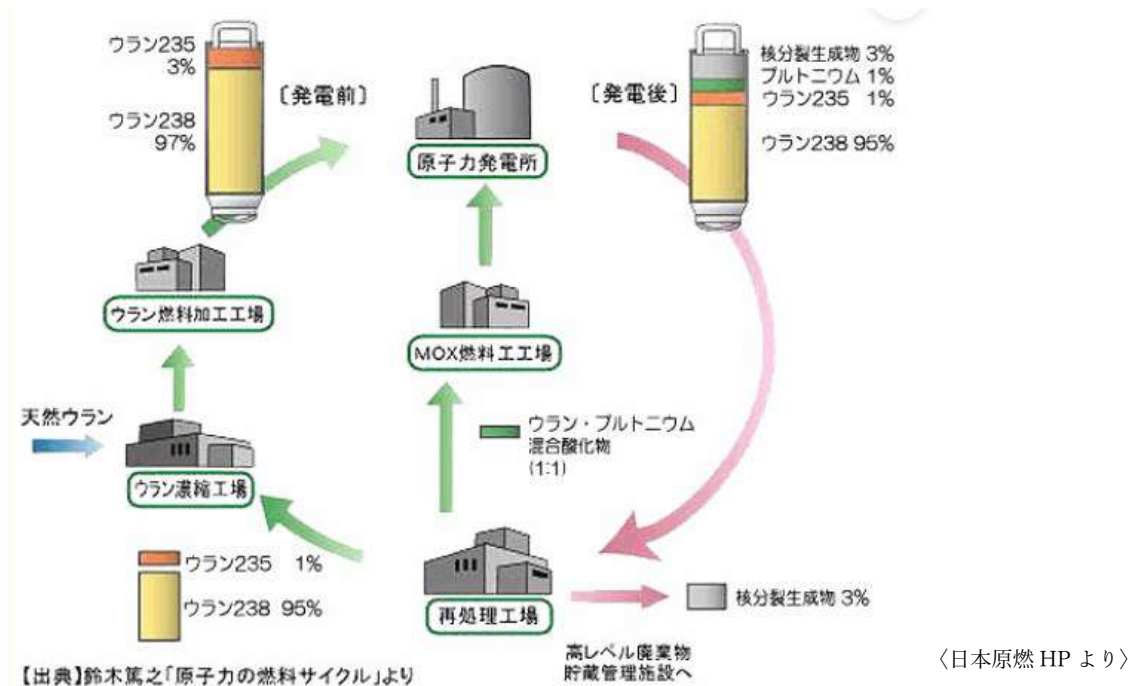
北海道電力	泊	39%
東北電力	女川	56%
	東通	23%
東京電力	福島第一	94%
	福島第二	88%
	柏崎刈羽	81%
中部電力	浜岡	87%
北陸電力	志賀	22%
関西電力	美浜	81%
	高浜	83%
	大飯	89%
中国電力	島根	68%
四国電力	伊方	81%
九州電力	玄海	86%
	川内	85%
日本原子力発電	敦賀	69%
	東海第二	84%

〈資源エネルギー庁資料より〉

〈再稼働阻止全国ネットワークリーフレットより〉

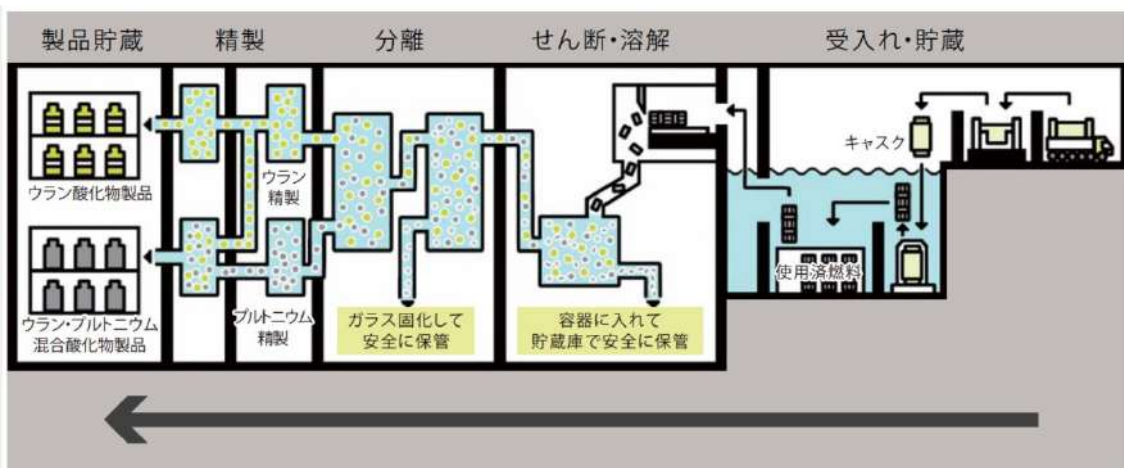
### 3. どう処理しようとしている？

海外ではほとんどの国が使用済み核燃料を直接処分することを計画していますが、日本では、**核燃料サイクル**を計画しています。これは、使用済み核燃料の中に核燃料として利用できるウランやプルトニウムが含まれるので、それを回収して MOX 燃料として利用しようという計画です。



使用済み核燃料は、原子炉に付置された燃料プールで保管し、放射線量や発熱量がある程度低下した後、再処理工場サイトにある貯蔵施設（青森県六ヶ所村）に運ばれます。**再処理工場**では、燃料棒を切断し、鞘(さや：被覆管)から使用済み燃料を取り出し、高温・高濃度の硝酸で溶解します。その溶液中のウラン、プルトニウムを、これらの元素と結合しやすい有機溶媒を使って取り出し（溶媒抽出）、さらに精製して核燃料の原料とします。

結果として死の灰などの不要物質が、長期保管を要する**高レベル放射性廃棄物**として残るため、それを**ガラス固化**して地中に処分することになっています。



〈資源エネルギー庁 HP より〉



#### 4. 危険極まりない再処理計画

使用済み核燃料を全量再処理し再び使う核燃料サイクルは、事実上行き詰まっています。再処理工場(青森県六ヶ所村)は30年以上前の1993年に着工しましたがトラブル続きで、完成や稼働のめどが立っていません。

そもそも再処理計画というものは重大な問題をはらんでいます。使用済み核燃料の中の利用できるウランやプルトニウムを再利用するというのは一見合理的な考えに思えますが、実は以下のように問題だらけの計画なのです。

- ① 一般に、化学プラントでは火災や爆発事故が多発しています。2020年8月のレバノン・ベイルートの硝酸アンモニウム爆発事故では、70人超が死亡、2,700人以上が負傷する事故が起きています。もし、類似の事故が再処理工場で起これば、放射性物質が広域にまき散らされます。
- ② 再処理工場では、被覆管の切断や燃料の溶解によって閉じ込めていた放射性物質を解放するため、大量の放射性廃棄物が放出されます。気体放射性物質の回収は困難なため、クリプトン85、トリチウム、炭素14、ヨウ素129、ヨウ素131、ルテニウム106他が高さ150mの煙突から大気中に放出され、同核種やロジウム106、セシウム137、バリウム137m、ストロンチウム90、イットリウム90、セシウム134、プルトニウム241他が液体で太平洋に放流されます。これらのうちトリチウムの放出量は年間最大9,700兆ベクレルと見込まれており、これは福島第一原発から放出されている汚染水に含まれるトリチウムと比べ物にならない位膨大なものです。
- ③ 高温の高濃度硝酸は、配管、溶解槽を腐食させます。
- ④ トラブル(腐食、目詰まりなど)が起こっても、高放射線に近寄れず、修理は困難です。高濃度の放射性物質を含む部分の冷却が途絶えれば、放射性崩壊熱で過熱され、爆発、火災が生じ、放射性物質が撒き散らされます。
- ⑤ プルトニウムを含む溶液が誤って加熱蒸発濃縮され、プルトニウムが高濃度になると臨界(核分裂連鎖反応)事故に至ります。
- ⑥ 使用済み核燃料は極めて高い放射線を出しますから、再処理工程の多くは、流れ系を採用し、遠隔操作で運転されます。そのため、六ヶ所再処理工場には約10,000基の主要機器があり、配管の長さは約1,300kmにも及びます(うち、ウラン、プルトニウム、死の灰が含まれる部分は約60km、継ぎ目の数は約26,000箇所)。高放射線に曝(さら)され、高温の高濃度硝酸が流れている容器や配管の腐蝕(とくに継ぎ目)、減肉(厚さが減ること:溶解槽で顕著)、金属疲労などは避けられず、安全運転できるはずがありません。

このように危険極まりない再処理工場は、動かしてはいけない施設なのです。

#### 5. プルサーマルで増す危険

再処理によってできるMOX燃料は当初、高速増殖炉(FBR)で使われる計画でしたが、原型炉もんじゅが1995年のナトリウム漏れ事故などの一連のトラブルの末2016年12月に廃炉が決まり、研究開発は中止になってしまいました。それと入れ替わりで打ち出されたのが、高速炉商用化の方針で、2018年末に策定された戦略ロードマップで、今世紀後半の

商用化を目指すことになりました。原子力規制委員会は2023年7月、**高速実験炉常陽**について再稼働を認め、日本原子力研究開発機構は2026年度半ばに運転再開を予定しています。

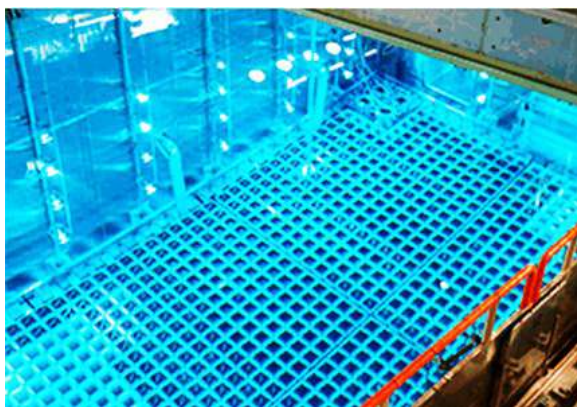
高速炉商用化には技術的な難航も予想されるため、次善の策として**軽水炉で MOX 燃料を使用するプルサーマル発電**が行われています。現在、関西電力の高浜発電所などの計4基でプルサーマルが実施されています。再処理工場が稼働していないため、使用済み核燃料をフランスに搬出し、フランスの再処理工場で作った MOX 燃料を使っています。しかし、このプルサーマルには以下のような問題点が指摘されています。

- ① 燃え方にムラが生じ、よく燃えるところの燃料棒が過熱・破損しやすくなる。
- ② MOX 燃料はウラン燃料より中性子を吸収しやすいので、中性子を吸収して原子炉の停止を行う「制御棒」の効きが悪くなる。
- ③ 中性子線の放出量が増えるため、原子炉圧力容器の脆化が早まる。
- ④ 使用済み MOX 燃料は使用済みウラン燃料より放射エネルギーや熱量が多いため、使用済みウラン燃料よりはるかに長期間のプール保管が必要となる。
- ⑤ 事故が起きた場合、従来の原子炉より**猛毒の放射性物質（プルトニウムや超ウラン元素など）の放出量が多くなるため、事故の被害が大きくなる。**

つまり、プルサーマル発電は従来の原発より格段に危険性が増す発電方法なのです。

一方、青森県では MOX 燃料を全炉心に装荷できる（**フル MOX**）大間原子力発電所が2030年の完成を目指し建設中です。大間原発は「**世界一危険な原発**」と呼ばれており、津軽海峡をはさんだ対岸に位置する函館市は大間原発の建設差止を求めて裁判を起こしています。

## 6. 何より危険な「出来たて使用済み核燃料」



〈関電 HP より〉

原子炉内で使用済みとなった核燃料は、原子炉から取り出し、原子炉の隣にある燃料プールへ移動させます。使用済み燃料を、放射線を遮へいするため水の中で移動させながら運び、深さ 10m 程の燃料プールの底に移動します。移動後は、発生し続ける熱を燃料プール内の水を循環させて冷やしながら貯蔵します（9 ページの図参照）。**使用済み核燃料を保管するプールは「むき出しの原子炉」とも呼ばれ、極めて脆弱です。**

原子炉の本体である圧力容器は暑さ 22cm の鋼鉄の容器の中に核燃料が閉じ込められていますが、燃料プールにはそのような防御物はなく、むき出し状態だからです。特に、**発熱量や放射線量が膨大な新しい使用済み核燃料の入った燃料プールが崩壊すれば、大惨事になります。**福島原発事故の際、4号機のプールが冷却水を失ってメルトダウンし、放射性物質が放出されて、首都圏まで壊滅的被害をこうむる危機を起こすと想定されたのは、この「出来たて使用済み核燃料」が大量に格納されていたからに他なりません。このため、被曝労働覚悟で燃料を取り出し、6号機のプールに移すようなことも行われたのです。

## 7. 福島原発事故で何が起きていた？

福島第一原子力発電所1～4号機の被害状況 2011年3月19日

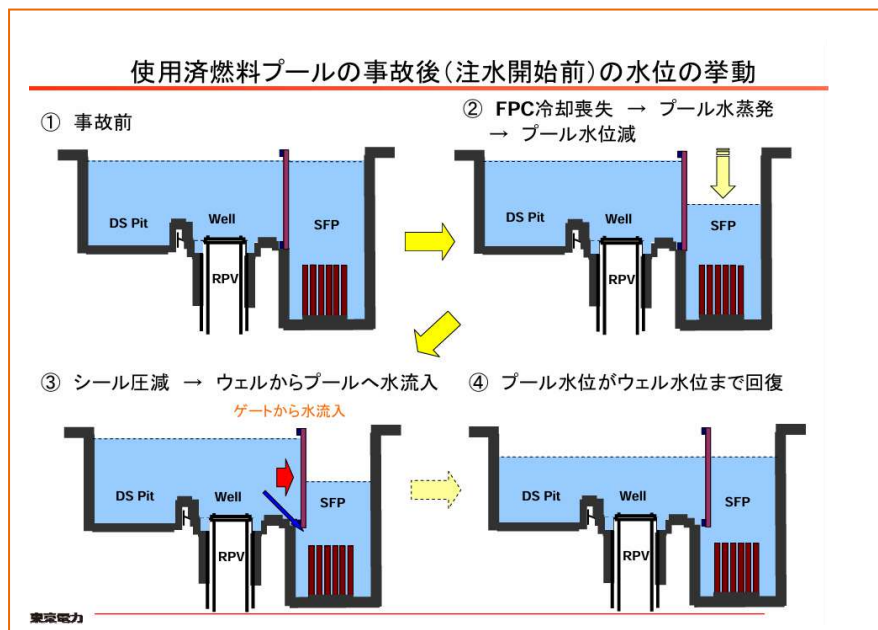


〈東電 HP より〉

2011年3月11日、東北地方太平洋沖を震源とする巨大地震とそれに伴う津波により、東京電力福島第一原子力発電所では重大な事故が起きました。電源喪失、海水による冷却機能喪失等により、当時運転中の1号機、2号機および3号機では、**原子炉停止後に必要な炉心の冷却ができず、炉心溶融を引き起こしました。**また、この際に炉心内で発生した水素ガスが原子炉建屋に漏れ出し、1号機と3号機で爆発が発生して原子炉建屋上部が破壊され、2号機では原子炉圧力容器と原子炉格納容器の損傷により原子炉建屋外へ大量の放射性物質を放出しました。定期検査で停止中の4号機では、3号機の水素ガスが原子炉建屋に流入して爆発が発生し建屋上部を損壊しました。この事故により、1号機から3号機まで全体でおよそ900京ベクレル（ヨウ素換算値、東京電力推計値）の放射性物質が大気中に放出され、この**放射能汚染を避けるため避難した人は、最も多い時（2012年5月）には16万4,865人に上りました。**

福島原発事故が起きた直後、当時の菅総理大臣が近藤駿介原子力委員会委員長に事故が連鎖的に悪化すると最終的にどうなるかシミュレーションをしてほしいと依頼して作成された「最悪シナリオ」という文書があります。これによると、もし1号機の原子炉か格納容器が水素爆発して、作業員が全員退避すると、原子炉への注水ができなくなり、格納容器が破損。2号機、3号機、さらに4号機の燃料プールの注水も連鎖してできなくなり、各号機の格納容器が破損。さらに燃料プールの核燃料もメルトダウンし、大量の放射性物質が放出される。その結果、福島第一原発の半径170キロメートル圏内がチェルノブイリ原発事故の強制移住基準に達し、半径250キロメートル圏内が、住民が移住を希望した場合には認めるべき汚染地域になるとされていました。半径250キロメートルとは、北は岩手県盛岡市、南は横浜市に至る範囲です。東京を含む東日本3,000万人が退避を強いられ、これらの地域が自然放射線レベルに戻るには、数十年かかると予測されていました。この想定のうち、**最も重大な被害を及ぼすと考えられていたのは4号機の燃料プールのメルトダウンによる放射能汚染でした。**





「最悪シナリオ」で示された4号機燃料プールのメルトダウンが起きなかったのは、いくつかの偶然が重なったことによる幸運の結果でした。まず、燃料プールに隣接する原子炉ウェル内のシュラウドという設備を取り換える作業のために普段は張られていない水が張られていたこと、しかも、本来なら3月7日には工事が終わって水が抜かれていたはずなのですが、工事が遅れていたために3月11日の震災当日にはまだ原子炉ウェルに水が張られていたのです。そして、震災当日、たまたま隣接する原子炉ウェルの仕切り板に隙間ができて、大量の水が流れ込んだおかげで4号機プールの水が干上がらずに済みました。さらに、4号機が水素爆発し、原子炉建屋最上階が壊れたことで、外からの注水が可能になりました。爆発前、3号機の格納容器ベントによって排出された放射性物質が流れ込み、4号機の原子炉建屋には人が立ち入れない状態でした。しかし4号機が爆発したため、コンクリート注入用の特殊車両(中国企業から無償供与されたもの)を遠隔操作し、燃料プールに冷却水を注入することが可能になったのです。もし、これらの偶然が重なっていなかったら、4号機プールの水位はどんどん低下し、使用済み核燃料がむき出しになり、東京を含む東日本3,000万人が退避を強いられ、東日本壊滅とも言える事態になっていたかもしれないのです。

## 8. その場しのぎの「中間貯蔵」

現在、原発から出る使用済み核燃料は更なるエネルギーを生む「資源」とされているため、使用済み燃料は各原発の敷地内で大切に保管されており、再処理工場が稼働した際にはプルトニウムなどを抽出する原料として出荷されることになっています。しかし再処理工場がトラブル続きで完成しないため、いつまで経っても出荷されません。使用済み燃料を収容しきれなくなれば原発は稼働停止に追い込まれるため、それを回避するために再処理工場への出荷前に一時保管する施設として東京電力と日本原子力発電は青森県むつ市に**中間貯蔵施設を建設**しました。電気事業連合会は2015年11月使用済み燃料対策推進計画を策定し、中間貯蔵能力の拡大に取り組み、中部電力・浜岡原発や九州電力・玄海原発、四国電力・伊方原発などに貯蔵施設が新たに整備される計画ができました。他方、関西電力は原発立地の

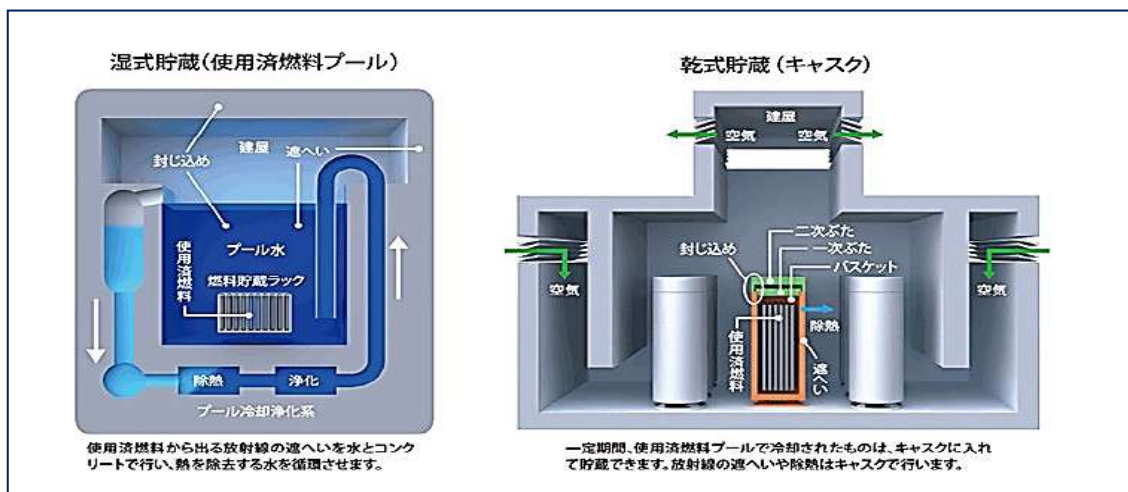


地元である福井県が県内での中間貯蔵に否定的で、貯蔵場所の確保に悩んでいました。そうした中 2023 年 6 月、高浜原発で保管されている使用済み核燃料の一部が 2020 年代後半にフランスへ搬出され、実証研究で再処理されることが発表されました。一方 2023 年 8 月、中国電力が山口県上関町に中間貯蔵施設を計画していることが明らかとなり、上関町長が調査受け入れを表明しました。中国電力はこの施設を関西電力と共同開発する方針です。上関町は、1982 年に持ちあがった原発建設計画に対し住民の反対運動が起こり、建設計画が中断されている場所です。周辺は瀬戸内海の中でも最も豊かな自然が残り「奇跡の海」と呼ばれています。このような場所に中間貯蔵施設を建設するという計画に、今地域住民の反対の声が高まっています。

中間貯蔵施設については、過去に宮崎県南郷町、和歌山県御坊市、和歌山県白浜町、福井県小浜市でも建設計画が持ち上がりましたが、いずれも住民の反対で阻止されてきました。

## 9. 乾式貯蔵にすれば安全？

関西電力は 2024 年 2 月 8 日、福井県内にある 3 カ所の原子力発電所すべてに、使用済み核燃料を空気で冷やす**乾式貯蔵施設**を建設する方針を明らかにしました。美浜原発と高浜原発、大飯原発の敷地内に乾式貯蔵施設を建設する方針で、3 施設の容量合計（700 トン）は関電の原発で発生する使用済み核燃料 5～6 年分に相当します。使用済み燃料は長期間プールに入れて水を循環させて冷やしますが、**乾式貯蔵は 15 年以上プールで冷やした使用済み燃料をキャスクという専用容器に移し、空気を循環して熱を取り除く**ものです。国内では日本原子力発電の東海第二原発（茨城県東海村）で実用化されており、四国電力や九州電力も設置する方針を示しています（使用済み MOX 燃料は乾式貯蔵施設に入れない計画）。



〈電事連 HP より〉

一定期間（15 年以上）プールで冷やした後の使用済み燃料はそのままプールに置いておくよりは乾式貯蔵に移した方が、危険性が減るという一面があります。しかし日本の場合、ドイツなどの諸外国と違い、再処理を前提にしており移動用の脆弱なキャスクを使用するため、使用期限もせいぜい 40～60 年と短く、落下物破壊に弱いという懸念があります。また中性子遮蔽材の劣化などで、中性子が出てくる危険性もあります。

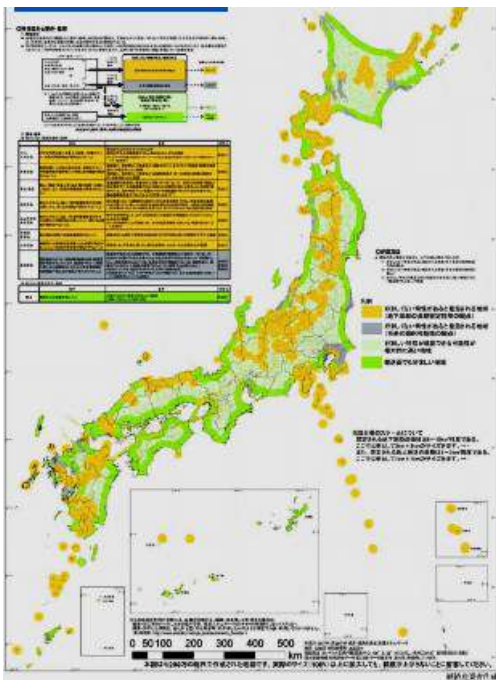
今電力会社がしきりに乾式貯蔵への移行を進めようとしているのは、プールが満杯にな

って原発の稼働ができなくなるのを避けるためであり、乾式貯蔵への移行を認めると原発の稼働が続き、何より危険な「出来立て使用済み核燃料」を生み出し続けてしまいます。

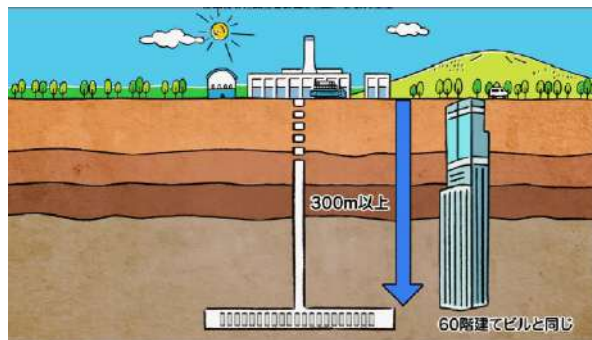
## 10. 行き場のない核のゴミ

現在の計画では、使用済み燃料は再処理して燃料として使用可能なウランやプルトニウムを取り出し、それ以外の使い道のない「ゴミ」が高レベル放射性廃棄物です。高レベル放射性廃液とガラスを溶かして固めたガラス固化体は、キャニスターと呼ばれるステンレス容器に入れて保管しますが、このガラス固化体はすぐそばに人が立つと約 20 秒で致死量に至るほどの強い放射線を出します。ガラス固化体の放射能は 10 万年経たないと安全なレベルにならないため、人間の生活圏から隔離しておく必要があります。青森県六ヶ所村の日本原燃（株）高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターという施設（キャニスター 2,880 本を収容可）ではこれまでに英仏に送った使用済み核燃料を処理して返還された高レベル放射性廃棄物 1,830 本を受け入れ、常時外の空気で冷やして保管しています。しかしこれらは青森県との約束で、最長 50 年で県外に搬出することになっています。最初の期限は 2045 年で、この約束を守るためにはそれまでに**最終処分場**を稼働させなければなりません。現在予定されている処分方法は**地下 300 メートルより深い地層に埋設する地層処分**という方式です。2000 年 6 月に「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」が施行され、処分地選定の取り組みが始まり、電力業界が中心となり**原子力発電環境整備機構 (NUMO)** が同年設立されました。政府は 2015 年 5 月「最終処分に関する基本方針」を閣議決定、科学的観点から最終処分地としての適性が高いと考えられる地域を提示することとしました。その方針に基づき、資源エネルギー庁は 2017 年 7 月、処分場の立地に適する地域と不適地を色分けで示した「**科学的特性マップ**」を公表しました。

【科学的特性マップ】



【地層処分の概念図】



〈NUMO HP より〉

〈資源エネルギー庁 HP より〉

2020 年 10 月に北海道の寿都町と神恵内村が処分地選定の第一段階にあたる「文献調査」の受け入れを決めました。2024 年 5 月には経済産業省が佐賀県玄海町に対し文献調査の実施

を申し入れ、町長は受け入れを表明しました。文献調査は2年程度かけて実施し、その後地域の同意があることを前提に、ボーリング調査などの概要調査や精密調査に進み、調査全体には20年程度を要します。

2023年10月30日、核のごみの処分地選びをめぐる地球科学の専門家有志300人余りが「日本に適地はない」とする声明を公表しました。この声明は地殻変動の激しい日本では、廃棄物を10万年にわたって地下に閉じ込められる場所を選ぶのは不可能と指摘、処分の抜本的な見直しを求めました。「日本列島は複数のプレートが収束する火山・地震の活発な変動帯」と指摘し、先行する北欧と同列に扱い、封じ込めの技術で安全性が保証されるとみなすのは「論外」と批判しました。岩盤が不均質で亀裂も多い上、活断層が未確認の場所でも地震が発生。地下水の流れが変化し、亀裂や断層を伝って放射性物質が漏れ出す可能性があり、10万年にわたり影響を受けない場所を選ぶのは「現状では不可能」と主張しています。

今年1月に発生した能登半島地震は「科学的特性マップ」で適地とされていた能登半島を直撃しており、「日本に適地はない」という専門家有志の指摘の正しさを裏付けています。

## 11. 原発を止め、安心して暮らし続けられる社会へ

このパンフレットでお伝えしてきたことの要点は以下の5点です。

1. 原発を動かさずと出る使用済み核燃料は、高熱を出すため燃料プールに水冷保管して発熱の減少を待たなければなりません。しかも人体に有害な強い放射線を出し、元のウラン鉱石と同じ放射線量になるまでに10年以上かかるというやっかいな代物です。
2. 日本では使用済み核燃料を再処理する計画ですが、再処理は極めて危険で環境に悪いものです。再処理工場を動かしてはなりません。
3. 核燃料サイクル計画の一環として実施されているプルサーマル発電は通常のウラン燃料発電より危険度が高い上、ウラン燃料のものよりさらに処理困難な使用済みMOX燃料を発生させます。フルMOXの大間原発はさらに危険かつ有害です。
4. 原子炉から取り出して「むき出しの原子炉」と言われる燃料プールに移設した直後の使用済み核燃料は熱量も放射線量も非常に高く危険です。偶然によって回避されたものの、福島第一原発事故の時に4号機プールのメルトダウンが起きていれば東日本は壊滅していました。原発の運転継続はこの危険極まりない使用済み核燃料の増殖を意味します。
5. 核のごみの安全な捨て場はどこにもありません。資源エネルギー庁によって最終処分の適地とされていた能登半島は今年大地震に見舞われ、核のごみの安全な捨て場はどこにもないという現実を私たちの目の前につきつけました。行き場のない核のゴミを増やす原発の使用継続は未来世代へのツケを増やす行為に他なりません。

原発を動かし続けることは、未来世代へのツケを増やし続けると同時に、燃料プールに移設した直後の使用済み核燃料による過酷事故の危険性を高めることに他ならないのです。私たちはこのような愚かな行為をやめなければなりません。これまで全国50数か所で原発の建設が阻止されてきました。今年大地震に見舞われた能登半島珠洲市の原発建設計画もその一つです。市民が声をあげれば原発は止まります。私たち1人1人が声をあげて一刻も早く原発を止め、私たちの社会を安心して暮らし続けられる場所にしていきましょう。



## あとがき

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震によって引き起こされた福島原発事故では、大量の放射性物質が大気に放出され、十数万人もの住民が避難しなければならない事態を招きました。この未曾有の大事故によって原発の安全神話は崩れ去り、政府はしばらくの間「可能な限り原発依存度を低減させる」政策を掲げていました。ところが福島原発事故から12年経過した2023年5月、岸田政権は「GX脱炭素電源法」を成立させ、これまでの方針を大きく転換し原発推進政策に踏み出しました。この原発推進法では、原発を重要な電源と位置づけ、老朽原発を使い続けようとしています。しかし、原発を使用し続けることは、危険で行き場のない使用済み核燃料を増やし続けることに他なりません。私たち再稼働阻止全国ネットワークはそのことに危機感を抱き、使用済み核燃料問題について理解を広めるための手段として、このパンフレットを企画しました。

このパンフレットでは、すでに発生してしまった使用済み核燃料を最終的にどうすべきかの解決策は示していません。私たちにとって、新たな使用済み核燃料をこれ以上生み出さないこと、すなわち原発を止めることこそが最優先の課題だと考えるからです。発生済みの使用済み核燃料を最終的にどうするかは、すべての原発が止まった後で、開かれた国民的議論を通じて、最もリスクが小さく合理的な方法を見出していくべきでしょう。

能登半島地震では想定外の地盤の隆起・沈降が起き、志賀原発の重要施設の損壊が明らかになりました。志賀原発は運転を停止していたからこそ大事故を免れましたが、もし運転していてプールに新しい使用済み核燃料が入っていたら、福島原発事故に匹敵するような大災害になっていた可能性もあります。地震列島日本では、原発過酷事故を引き起こす地震・津波がいつどこで発生するかわかりません。その意味で、原発の廃絶＝脱原発は待ったなしです。

原発に依存しない社会を共に築き上げる一助として、本パンフレットを活用していただければ幸いです。

2024年6月15日



非売品学習資料  
カンパ 100円

### 再稼働阻止全国ネットワーク

メール: [info@saikadososhinet.sakura.ne.jp](mailto:info@saikadososhinet.sakura.ne.jp) TEL: 070-6650-5549

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3-1-1 高橋セーフビル 1階 たんぽぽ舎気付

URL: <http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/rn/>